

多摩市市制施行50周年記念市民提案事業



「たま気候みらいプロジェクト」 の報告

2023年5月20日(土) 関戸公民館

一般社団法人 多摩循環型エネルギー協会



たま気候みらいプロジェクト 報告1/5「市民提案事業として採択」



多摩市市制施行50周年記念市民提案事業(実施期間:2022年9月1日~2023年3月15日)
2022年春に募集→3テーマのうち「地域で進める地球温暖化対策」を選択し、
「たま気候みらいプロジェクト」を提案
→ 一次書類審査、7月のプレゼンテーション審査を経て採択



公開プレゼンテーション審査



再エネ地産地消のほか、地球温暖化対策啓発の活動実績もアピール

2部構成の提案内容

①環境省ヒアリングと先行地域視察、事業者向けワークショップを行う「**調査の部**」

②多摩市若者会議と協働して若い世代向けのワークショップや情報発信を行う「**啓発の部**」

たま気候みらいプロジェクト 報告2/5「環境省ヒアリング」



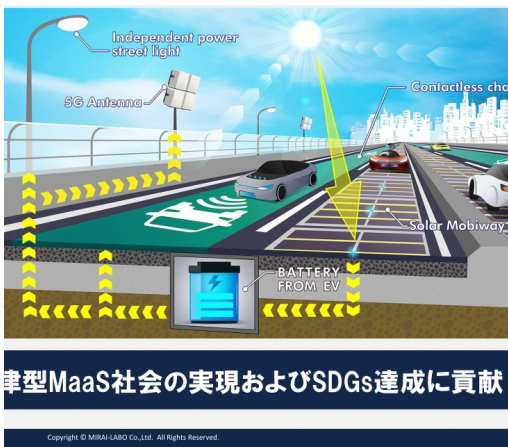
9月、環境省 地球環境局地球温暖化対策課脱炭素ライフスタイル推進室を訪問しヒアリング

「新しい国民的運動に発展するような大キャンペーン(10月予定:後述の**脱炭素先行地域**も含む)」などについて聴く

→「脱炭素につながる新しい豊かな暮らしを創る国民運動」**官民連携協議会**が発足。11月末時点で442の自治体・企業・団体等、当協会も参画

これまでにオンライン会議、先進的な取り組み事例の共有など

たま気候みらいプロジェクト 報告3/5「事業者向けワークショップ」



2022年



2025年



多摩市 市ノ瀬
地球温暖化対
策課長も市の
取り組みを説明

11月、多摩市脱炭素ワークショップ第1回「都市部の再エネ普及に寄与するソーラー新技術と、協業の可能性～脱炭素化を推進する地域連携のビジョンを語ろう～」実施。

基調講演では、MIRAI-LABO株式会社の常務取締役兼営業戦略本部長の平塚雷太氏より、同社が手がける太陽光路面発電などの先進的な技術を説明。

都市部の道路や駐車場、企業施設内の敷地などでも大規模に導入可能な技術ため、今後コストが下がり普及にはずみがつくことを期待

後半は3グループに分かれ、2つのテーマで討論

1. 地球温暖化対策に貢献する先進技術を、協業や連携を通じてどのように多摩市に導入・展開していけるか→「恩恵の還元
の仕組みがわかりやすいもの」「シェアサイクルの充電に使えるなどの受益の見える化」

2. 民間企業と行政が効果的に連携して脱炭素社会を地域一丸となって実現するために必要な推進体制や機能→「課題解決を地域共創で進め、若い世代など新たなプレイヤーを加えていく」「企業や行政を柔軟な発想でつなぐ人材で推進を拡大」

官民が連携する推進体制の“キックオフ”！

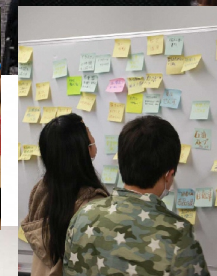
たま気候みらいプロジェクト 報告4/5「次世代に向けた啓発」

多摩市若者会議と2つの活動で連携

①特設サイトの開設

<https://kikou-mirai.tama.eco/>

「地球温暖化について学ぼう」「地球温暖化を止めるため、身近なことから始めよう！」などのコラム、活動の告知と報告



②12月、第2回多摩市脱炭素ワークショップ「非常事態！みんなのまちを気候変動から救え！」を共同開催

「気候変動に対して今日からできるアクション」を話し合う

→「近場は自転車を使う」「エコバッグを使う」などのアイデアを付箋に書き出し、全体で共有

「色々な世代の人と話せて良かった。友達も誘って、輪を広げていきたい」などの感想



多摩市若者会議
多摩市脱炭素エネルギー協会
多摩電力合同会社
多摩市若者会議

新着記事

2/10脱炭素シンポジウムのご案内
(多摩市市制施行50周年記念市民提案事業)
© 2023/1/28
多摩市脱炭素エネルギー協会は昨年2月10日(金)、以下のようにシンポジウムを開催しました。このイベントは、多摩市制施行50周年記念市民提案事業として協賛会が採択された事業として実施されました。「たま気...

【開催レポート】第2回多摩市脱炭素ワークショップ
© 2023/1/10
～ 非常事態！みんなのまちを気候変動から救え！ 脱炭素ワークショップ 2022年12月18日、「たま気候未来プロジェクト」の一環として、一般社団法人多摩市脱炭素エネルギー協会（多摩エネ協）と...

「たま気候みらい」のマスコット、「たまてん」の秘密に気づきましたか？
© 2023/1/7
このサイトの上部にもある「たま気候みらいプロジェクト」のマスコット、黄色い変な顔のマスコットキャラクターがあります。名前が「たまてん」。顔は電子レンジで、手には命を持ったこのキャラクター、別にどこか見...

地球温暖化が進むとどうなるの？
①南極と北極、高山地帯などにある氷や氷河が溶けて海に流れ込むことで、海の水位が上がり、海沿いの低い土地や小さな島などが海に沈んでしまいます。②極端に暑い日が続いたり、豪雨や台風が増えたりして、異常気象による災害も増える可能性があります。③気温の上昇が農業に影響を及ぼしたり、海水温の上昇が漁業に影響を及ぼしたりして、食べ物が少なくなるおそれがあります。④北極や南極、高山などの寒冷な場所で生きている動植物は、気温の上昇による環境の変化で、数が減っていくおそれがあります。

対策をしないと未来はどうなる？
すでに世界の気温は、産業革命前の水準に比べ約1°C上昇しています。このまま気温が上がり続けるか、あるいは上昇を止められるかの項目が、「2050年に1.5°C上昇」以下におさまられるかどうかだとされています。

最近の異常気象は地球温暖化が原因なの？

たま気候みらいプロジェクト 報告5/5「先行地域・施設等の視察」



1月、先行地域・施設視察 ①町田市バイオエネルギーセンターでは、生ごみからメタンガスを発生させ燃焼、タービンで発電する設備など見学。火災対策などの課題も聞いた

②地産地消などSDGsに取り組む「まちの駅八王子」で昼食



③北野清掃工場の薪ボイラーによる足湯を体験

④八王子市地球温暖化防止活動推進センター(クールセンター八王子)で、同市の取り組みなどを伺う。多摩清掃工場「たまかんフェスタ」での共同啓発事業も提案・検討

⑤八王子市鑑水のソーラー住区。無電柱化された街並みにパネルを載せた屋根がずらり

たま気候みらいプロジェクト 総括：成果・課題・今後

【成果】

- 市民、市内事業者、識者らと意見交換するイベントを実施し、そこに地球温暖化対策課長にもご参加いただいたことで、産学官民が連携して取り組む機運を醸成する一助になった

【課題】

- もともと関心の高い層に足を運んでもらうことはできたが、関心が低いか無い層にも興味を持ってもらう工夫は不十分で、それが参加者数の少なさに表れた

【今後】

- 地域で取り組む地球温暖化対策をさらに推進するためには、一般論や世界の動向の情報を共有する段階から先に進み、地域の具体的な課題に積極的にコミットする機運を高めることが必要
- 産学官民の連携が今以上に重要になる点を強く意識して、活動を前に進めていきたい